

第8号

定価一年間300円
組合員の購読料は
組合費に含む



発行

檜山教職員組合

〒043-0056 江差町字陣屋町 86-1
Tel 0139(52)0858 FAX(52)1490
発行責任者 石橋英敏
E-mail: hiyamakyoso@proof.ocn.ne.jp

学校における働き方改革や複雑化・困難化する教育課題へ対応するため、教職員定数を+4235人を要求。学校の指導・運営体制の効果的な強化・充実を図り、新学習指導要領の円滑な実施を実現。

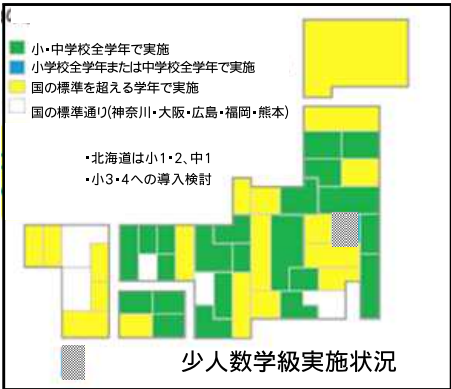
・加配教職員定数の改善 +85億円(+3,920人)	・基礎定数化に伴う定数増 +7億円(+315人)	計 対前年度▲3億円
・教職員定数の自然減 ▲49億円(▲2,249人)	・教職員配置の見直し ▲43億円(▲2,000人)	
・教職員の若返り等による給与減 ▲4億円	・教職員給与の見直し +1億円	

*文科省「概算要求ポイント資料集」より

2020年度文科省概算要求

「標準法改正」手つかず 抜本的改善に遠く

概算要求に関わる全教の文科省交渉=8月6日



「国民的合意必要」と

来年度政府予算に向けた文科省概算要求(8月29日発表)は、前年度予算比で12・2%増ですが、「標準法」に手をつけないままの対応で、教育現場の抜本的な改善には程遠いものとなっています。

教職員定数については、小学校専科指導3090人、中学校における生徒指導等670人、共同学校事務30人、主幹教諭30人、チーム学校や統廃合・小規模校支援等100人で、加配定数3920人の定数増、「通級指導」「日本語指導」「初任者研修」の基礎定数化315人、合計4235人の教職員定数を要求。一方、自然減2249人、教職員配置の見直し2000人減、合わせて4249人の定数減を見込み、差し引き14人減、予算も対前年度比3億円のマイナス要求です。(表参照)

20年度までに4000人必要としていた小学校英語専科指導加配を1000人しか要求せず、3年間でも3000人しかありません。さらに、専科指導や教科担任制を積極的に取り組む学校を支援するとして、競わせながら高学年教科担任制の導入を誘導するような手法となっており、問題です。

専門スタッフ・外部人材の拡充を図る一方で、義務標準法改正による根本的な定数改善や35人以下学級への言及がありません。すでに全国42都道府県で独自の少人数学級が実施されており、このまま地方任せにするのは国に責任放棄で、許されません。(上図参照)

「教育に穴があく」(教職員未配置)の問題を解決するための予算要求

9月7日、乙部町ゆりの里活性化センターで檜山女性教職員交流会(同実行委員会主催)が開催されました。スイーツ作りと権利学習で交流、10名が参加しました。

「どうぶでかぼちゃプリン」(おとうふ大福)のレシピを作ったのは江差町在住の長谷川みどりさん。長谷川さんの指導の下、豆腐を活かした素材を使ったプリンを冷蔵庫で冷やして、大福づくりに挑戦。館を包む際に、種なしぶどうやキウイ、オレンジ、クリームチーズなどを好みでトッピングします。

それがまた楽しさを誘います。

1時間半で完成。昼時まで、檜山教組委員長石橋英敏さんを講師に女性教職員の権利について



檜山女性教職員交流会

弁当とスイーツを食べながら一室福のひとときです

9月7日、乙部町ゆりの里活性化センターで檜山女性教職員交流会(同実行委員会主催)が開催されました。スイーツ作りと権利学習で交流、10名が参加しました。

「どうぶでかぼちゃプリン」(おとうふ大福)のレシピを作ったのは江差町在住の長谷川みどりさん。長谷川さんの指導の下、豆腐を活かした素材を使ったプリンを冷蔵庫で冷やして、大福づくりに挑戦。館を包む際に、種なしぶどうやキウイ、オレンジ、クリームチーズなどを好みでトッピングします。

それがまた楽しさを誘います。

1時間半で完成。昼時まで、檜山教組委員長石橋英敏さんを講師に女性教職員の権利について

スイーツ味あい権利学習

もありません。必要な教職員は正規で配置することが基本であり、国が責任をもって対処することが求められます。

特別支援学校の設置基準策定は見送られ続けています。既存施設の活用に係る改修事業の算定制合が3分の1から2分の1に引き上

げられたのは運動の成果ですが、抜本的な解決はこれからです。高校生等への修学支援が増額され、高等教育の修学支援が予算化されるという前進面もあります。が、無償教育の国際公約からは大きく立ち後れたままです。

全教との交渉で文科省は、「予算や制度は国民的合意が必要」と回答。ゆきとどいた教育を求める全国署名のとりくみがいよいよ重要です。

2019檜山合同教育研究集会 教科等集

立ち止まって考え合おう! 子どものこと、学校のこと、地域のこと

10月5日(土) 9:30-16:30
江差町立江差小学校

教育講演会 14:30-16:00 江差小学校集会室

子どもたちの中に眠っている宝物
これからの社会を創っていく主体としての子どもたちと接しながら

鈴木哲実氏 (平取町立振内中学校)

秋田県出身。北海道作文の会。綴り方教師です。子どもの心を解き放つ実践が定評で、授業を参観する者の心を惹きつけます。

「自分を開示し、周囲とつながっていく子どもたちがいる」—子どもへの信頼を基礎に紡がれる人間教育の実践に学ぶこと大です。ぜひご来場ください。

主催/檜山合同教育研究集会をすすめる会
(檜山教職員会館内 TEL0139-52-0858)

て学習しました。女性運動史も紐解かれ「不断の努力」で確保される権利の大切さを学びました。

昼食交流でスイーツも賞味。プリンに掛ける黒蜜も手作りでした。用意されたレシピは参加者が持ち帰り、全てなくなりました。

実行委員長の青木志暢さん(若松小)は、「こうして集まれば楽しい。また企画しますね」と呼びかけました。

(レシピを希望される方は檜山教組までお問い合わせください)



大福の館を包む—ぶどうやキウイやオレンジやクリームチーズなどを好みでトッピング

ネット署名にご賛同を!



スマホのバーコードリーダーをかざすと署名の画面につながります。

せんせいふやそう

子どもも寄り添う教育、教師の仕事

社会の「目」と進路観を育む



【続】実践報告要旨 笹原昌子さん

檜山合同教育研究領域等集会

前号の続きです。綴りと通信で切り結ばれる人と人のつながり。それを可能にする子どもへの深い信頼と思い！

中学生の避けて通れない課題が「進路」。「進路」と題する日記は、ユーモアたっぷりに綴られているが、当人の真剣さも伝わる。重い課題だが、家族との何気ない

⑤ 進路 今日、父さんに「将来なにするんだ」と言われて困った。でも、ぼくは「看護師」と言ってしまった。「あっちゃー」と思った。父さんは「がんばればできる」と言ってくれたけど、母さんは「どうかな？できるかな？」とかいろいろ言ってきた。それを聞いて頭にきた。「ぜったいに看護師になって母さんを驚かせてやる」そう思った。あそこまで言われて黙っているわけにはいかない。でも、目の前で人が死ぬのはちょっときついかも。そうならないようにがんばる。……っていうか死なせない。立派な看護師になって父さんを超える！まけん！

⑥ 合格or不合格!? やっと最後の期末テストが終わって安心しました。けど、今度は受験に向けて頑張らなければいけないですね。結局、入試は学力を点数で出して競い合うということになるので、「勉強ができる=勝ち組」という意味でしょうか。それも嫌な話です。 どうせなら学力だけでなく、受験者の性格や普段の行いも大きく反映してくれたら日本はもっと世界に進出するのではないのでしょうか。ちなみにアメリカのハーバード大学は学力点数だけでなく、スポーツ、ボランティア、人格なども重視するそうです。ちなみに東大は学力だけだそうです。意外と海外との差はこういうところにあるのかもしれないと思いました。

⑦ 「まちがえて何が悪い!!!」 「モンマス！」 私は社会の時間にあわてていて「マンモス」を「モンマス」と言ってしまった。それから〇〇や〇〇に「モンマス」「モンマス」と言われるようになった。なぜ、まちがえたらそこまで言われたいいけないの？私はその日からずーと思っていた。まちがえたからって、そこから得られるものだってある。私は「やめて」と言ったが、何回も何回も「モンマス」「モンマス」と言われる。それから私は無視した。だって「やめて」と言ってもきかないならどうする？手を出すわけにもいかないし、キレたらキレたと言ってくるし…。それからもうまちがえたらまた言われると思いい、授業に集中できなかった。 今度また言われたらどうしよう…。

⑧ は、親の仕事調べを実施したときの文章の一つ。経済的に厳しい家庭の生徒だが、健気に父親から聞き取り、父親も飾らず、我が子としての力を発揮している。自分の得意なこと、苦手なこと、に気づかせたい。

全国教研環流報告(概要) 障害児教育分科会 遠藤美由樹さん



「命」と向き合う院内学級現場実践。虐待でトラウマを抱える子どもの成長記。子どもありのままを受け止め「子ども」の自己決定を大事にし「待つこと」の大切さを学んだ。通級指導教室が「不登校」の子ども達の居場所としても機能しているという報告もあつた。「特性」も理解でき、関わりが可能になったという。 私のレポ ー ト は「はじめの通級指導教室」をまとめたもの。経験もなく「これでいいのかな？」と迷いながらの実践だった。でも「行ってきまーす」とクラスに元気あいさつし、友だちから「行ってらっしゃーい」と送られてやってくる子ども姿に励まされ楽しくなる。「教室」には様々な「教材教具」を準備しておく。「色別計画表」や学習用の教材、絵カードや指卜

「命」と向き合う院内学級現場実践。虐待でトラウマを抱える子どもの成長記。子どもありのままを受け止め「子ども」の自己決定を大事にし「待つこと」の大切さを学んだ。通級指導教室が「不登校」の子ども達の居場所としても機能しているという報告もあつた。「特性」も理解でき、関わりが可能になったという。 私のレポ ー ト は「はじめの通級指導教室」をまとめたもの。経験もなく「これでいいのかな？」と迷いながらの実践だった。でも「行ってきまーす」とクラスに元気あいさつし、友だちから「行ってらっしゃーい」と送られてやってくる子ども姿に励まされ楽しくなる。「教室」には様々な「教材教具」を準備しておく。「色別計画表」や学習用の教材、絵カードや指卜

トンネルの仕事をするお父さん

私の父は、壊れたトンネルや道路を直したりと、いろいろなことをしています。昔は、家を造る大工をやっていました。私の住んでいる家もお父さんが造ったそうです。すごいなあと思いました。 お父さんは、トンネルの仕事は給料がよくないと言っていました。でも、昔、お父さんが大工の仕事よりは給料が安いけど、給料が安いと思ってこの仕事にしたそうです。 お父さんは、この仕事を面白くないと言いつつ、ほかの仕事は向かないからとやっています。お父さんは、トンネルの仕事が終わると仕事がなくなります。次にいく時は結構遠いところに行きます。 この仕事は、すごく疲れるそうです。なんでも一日、10時間から12時間位働くそうです。でも、どんなに頑張っても給料が安いので働きがいを感じないときもあるそうです。この仕事の大変さは、穴を掘ったり埋めたりといった同じようなことをしていることだそうです。 お父さんはトンネルができてうちに帰ってくると、「疲れたー。やることねえ。」とか言っています。それほど大変なんだなあと思いました。いつかお父さんが仕事をしたトンネルを見たいです。 私は、お父さんはすごいと思います。こんなに疲れる、給料の安い仕事は絶対やらないと思います。でも、お父さんは頑張っています。やっぱりお父さんはすごいなあと思いました。遠いところに行ってしまうのは寂しいけれど、私たちのために頑張っているなあと思いました。

「人物」重視を説く。進路課題に直面するクラスで考え合う話題を提供してくれる。そして大人社会の在り方を問う問題提起として私

「命」と向き合う院内学級現場実践。虐待でトラウマを抱える子どもの成長記。子どもありのままを受け止め「子ども」の自己決定を大事にし「待つこと」の大切さを学んだ。通級指導教室が「不登校」の子ども達の居場所としても機能しているという報告もあつた。「特性」も理解でき、関わりが可能になったという。 私のレポ ー ト は「はじめの通級指導教室」をまとめたもの。経験もなく「これでいいのかな？」と迷いながらの実践だった。でも「行ってきまーす」とクラスに元気あいさつし、友だちから「行ってらっしゃーい」と送られてやってくる子ども姿に励まされ楽しくなる。「教室」には様々な「教材教具」を準備しておく。「色別計画表」や学習用の教材、絵カードや指卜

檜山合研領域等集会 参加者の感想

分科会参加者から寄せられた感想を、一部要約して紹介します。

悩み聞き取り合い励みに

分科会では、僕の悩みに対して、様々な視点から様々な意見を頂けました。さっそく実施していきたい。 ●支援が必要な子について、現状からのアプローチ、様々なケースに応じた対応など多様な支援の方法について話し合いの訴えだ。『教室はまちがうところだ』(時田晋治作)も一緒に紹介した。当事者だけでなく、学級みんなが考えるきっかけになった。道徳や学活などでの指導にも活かしていきたいことなる。 ●2学期がスタートし、不安なことを聞いてもらい、ちょっとスッキリした。学力向上(学力調査)について、やらなければならぬことが多くあるが、振り返りさせられないよう、生徒たちが「楽しい」「わかった」「できた」と実感できるような授業を地道につくっていくと思う。

と向き合い、実直に語る。重労働と厳しい条件の中で耐えながら働く父親。その重苦しい現実を受け止めるながら、親への誇りを滲ませる。その姿が心を打つ。 この取り組みは、大きくは進路観を育むことをねらいにしたものだが、実社会に生きる親たちと改めて「対面」させ、子どもと親とのつながりをも意識した。働く親社会との対面を通して現実に向き合うことは、思春期を生きる重要な課題だと思ふ。

(つづく)